

は正規のカップ法の至適な検定条件にもとずき、各種濃度の葉酸標準液と生成発育円との関係を観察するとともに統計学的処理を行ない、さらに2, 3生物材料について本法による葉酸定量を実施した。

1)薄層カップ法における生成発育円の再現性は良好であり、かつ感度がよくなり、2.5~100 $\mu\text{g/ml}$ の葉酸濃度では $\alpha = \alpha \log C + \beta$ なる直線関係が成立し、その最大誤差値(危険率1%)も20%前後でこの範囲の定量は可能である。しかし、このばあいにも発育帯は二重円となる。2)本法により2, 3天然試料中の葉酸定量を実施したところ低濃度の測定が可能となり、微量の葉酸を含有する標品の検定には好適で十分実用に供しうることがうかがわれた。

A-55 カップ法によるビタミンB群の微生物定量にかんする基礎的研究
(IX) *Streptococcus faecalis* を検定菌とする薄層カップ法による葉酸の微生物定量

県立新潟女短大 ○山田 雅子
稲越 徳子
塚原 勲

1. 著者らは葉酸定量法の簡易化と精度の向上とを企図してカップ手技による葉酸定量法に関し検討を重ねてきたが本法が十分実用に供しうることを見出し報告した。これら一連の検索から本法の感度の上昇と生成発育帯の二重輪を解消せしめる必要性を痛感し、この目的のために本法に薄層手技の採用を企図した。
2. 検定平板の厚さを原法の2分の1に薄くしたほか